

セミナー「紛争回避と環境配慮に関するグローバルなヒンドゥー教・仏教イニシアティブ」開会式における城内外務副大臣挨拶

平成 27 年 9 月 3 日

モディ首相閣下、ヴィジュ・ヴィヴェーカナンダ国際財団理事長、国際仏教連盟関係者の皆様、東京財団関係者の皆様、ご列席の皆様、

《冒頭》

まずはじめに、本日の大変意義深いシンポジウム開催に当たってのインド側関係者の御尽力に心からの敬意を表すとともに、お祝いを申し上げます。

本日は残念ながら安倍総理が国内での国会審議等のため出席できませんが、代理として出席させていただき、大変光栄に存じます。

《アジアにおける宗教・思想》

安倍総理からのビデオメッセージにもありましたが、民主主義や、自由、基本的人権の尊重、紛争の平和的解決といった、アジアにおける宗教や思想が古くから内在する考え方の起源と人類社会における役割を、このシンポジウムの機会にもう一度見つめ直し、未来に向かって議論することは、アジアのみならず、世界の将来にとって非常に重要であると考えます。

古来、アジアは多くの思想を生み、また受け入れてきました。その背景には、多様性を認め合う寛容の精神があります。寛容の精神こそ、アジアにおける民主主義を育む豊かな土壌であり、私たちが誇るべき歴史的な共有財産ではないでしょうか。

《日印協力》

本日は、インドの友人の皆さんに、このような重要なテーマについて皆で議論する機会を作っていただきました。議論の結果を日本にも持ち帰り、将来につなげていくつもりです。

インドの成長と活力には、アジア、ひいては世界をリードする力強さがあり

ます。私自身、2年前に外務大臣政務官としてインドを訪問しました。以来、わずか2年の間にモディ政権の発足も受け、インドは経済面を始め、更なるめざましい発展を遂げてきております。安倍総理とモディ首相のリーダーシップの下、日印関係も様々なレベルで深まりを見せています。

昨年夏、モディ首相が訪日された際、モディ首相に日本の古都、京都を訪問いただき、6世紀以来、日本で受け継がれてきた仏教の姿をご覧いただきました。今回のセミナーでは、ブッダガヤ訪問の機会もあると聞いています。

アジア各国にあるそれぞれの宗教・思想などが生み出した歴史的遺産に皆が足を運び合い、さらに理解を深めていくことは、これからのアジアの未来にとって、かけがえのない相互理解と協力の基礎となっていくことでしょう。

《むすび》

インドは古くから異なる宗教と思想を受け入れ、多様性を育んできた国です。今回のシンポジウムを機会に、新たにインドから多くを学び、出席者の皆様とともに、インドからアジアへ、アジアから世界へと、多様性・寛容性の波を先導していきたいと思えます。

ご静聴ありがとうございました。